



## 構築と展開のワークフロー

- [AP 更新ワークフロー \(1 ページ\)](#)
- [ユーザー定義ネットワークの設定ワークフロー \(5 ページ\)](#)
- [スイッチでのアプリケーションホスティングの有効化 \(8 ページ\)](#)
- [IoT サービスの有効化ワークフロー \(10 ページ\)](#)
- [Cisco DNA Center からの AP 設定について \(12 ページ\)](#)

### AP 更新ワークフロー

ここでは、Cisco DNA Center のワークフローを使用して古いアクセスポイントを新しいアクセスポイントに置き換える方法を説明します。

#### AP 更新ワークフローの概要

AP 更新機能では、Cisco DNA Center のワークフローを使用して古い AP モデルを新しい AP モデルに置き換えることができます。

AP 更新ワークフローでは、Cisco AireOS コントローラおよび Cisco Catalyst 9800 シリーズワイヤレス コントローラに関連付けられている AP をサポートしています。

AP 更新ワークフローでサポートされる AP は次のとおりです。

- Cisco Aironet 1810 シリーズ OfficeExtend アクセス ポイント
- Cisco Aironet 1810W シリーズ アクセス ポイント
- Cisco Aironet 1815i アクセスポイント
- Cisco Aironet 1815w アクセス ポイント
- Cisco Aironet 1815m アクセスポイント
- Cisco Aironet 1830 シリーズ アクセス ポイント
- Cisco Aironet 1850 シリーズ アクセス ポイント
- Cisco Aironet 1800 シリーズ アクセス ポイント

- Cisco Aironet 2800 シリーズ アクセス ポイント
- Cisco Aironet 3800 シリーズ アクセス ポイント
- Cisco Aironet 4800 シリーズ アクセス ポイント
- Cisco Aironet 1700 シリーズ アクセス ポイント
- Cisco Aironet 2700 シリーズ アクセス ポイント
- Cisco Aironet 3700 シリーズ アクセス ポイント
- Cisco Catalyst 9115 シリーズ Wi-Fi 6 アクセスポイント
- Cisco Catalyst 9117 シリーズ Wi-Fi 6 アクセスポイント
- Cisco Catalyst 9120 シリーズ Wi-Fi 6 アクセスポイント
- Cisco Catalyst 9130 シリーズ Wi-Fi 6 アクセスポイント

## AP 更新ワークフロー

この手順では、Cisco DNA Center で古い AP を新しい AP に置き換える方法を示します。

### 始める前に

- 古い AP がプロビジョニング済みで、到達不能な状態になっている必要があります。
- 新しい AP がシスコ ワイヤレス コントローラに接続されて Cisco DNA Center のインベントリに登録され、到達可能な状態になっている必要があります。
- 古い AP と新しい AP が同じワイヤレスコントローラに関連付けられている必要があります。

---

**ステップ 1** Cisco DNA Center GUI で [Menu] アイコン (☰) をクリックして選択します[Workflows] > [Access Point Refresh] の順に選択します。

使用可能なワークフローのライブラリが表示されます。これらのワークフローを使用することで、特定のタスクを手順に従って実行できます。

**ステップ 2** [Let's Do it] をクリックします。

今後この画面をスキップするには、[Don't show this to me again] チェックボックスをオンにします。

[Get Started] 画面が表示されます。

**ステップ 3** [Task Name] フィールドにワークフローの一意の名前を入力し、[Next] をクリックします。

**ステップ 4** [Select Network Sites] 画面で、AP を更新するフロアまで移動し、[Next] をクリックします。

右側のペインに、選択したビルディング、フロア、およびそのフロアにプロビジョニングされている AP の合計数が表示されます。

すでにプロビジョニングされた状態の AP を置き換えることができます。

**ステップ 5** [Select Access Points] 画面で、交換するデバイス名の横にあるチェックボックスをオンにし、[Next] をクリックします。

**ステップ 6** [Select procedure for providing New Access Points] 画面で、新しい AP の詳細を指定する方法を選択します。[Add New Access Point detail via CSV file] または [Add New Access Point detail via GUI] のいずれかを選択できます。

- 新しいデバイス名とシリアル番号を含むカンマ区切り値 (CSV) ファイルをアップロードする場合は、[Add New Access Point detail via CSV file] オプションボタンをクリックします。
  - これを行うには、[Download Selected Devices List] テンプレートをクリックし、新しい AP のデバイス名とシリアル番号を追加します。ダウンロードした CSV テンプレートファイルには、古い AP の詳細が含まれています。新しい AP のデバイス名とシリアル番号を追加した後、CSV ファイルをインポートするか、ドラッグアンドドロップ領域にドラッグアンドドロップします。
  - CSV ファイルをインポートするには、[Choose file] をクリックし、CSV の場所を参照して [Open] をクリックします。
- GUI を使用して新しい AP の詳細を追加する場合は、[Add New Access Point detail via GUI] オプションボタンをクリックし、[Next] をクリックします。

[Assign New Access Points] 画面が表示され、古い AP のそれぞれに対して新しい AP を割り当てることができます。

- [Old Devices] 領域に、古い AP の IP アドレス、古い AP の名前、サイトの詳細、プラットフォーム、AP シリーズの情報などの詳細が表示されます。[New Devices] 領域で、新しいデバイスに関する詳細を入力します。
- [Choose Serial Number] ドロップダウンリストから、新しい AP のシリアル番号を選択します。

新しい AP がすでにワイヤレスコントローラに関連付けられ、インベントリに登録されている場合、その AP のシリアル番号は [Choose Serial Number] ドロップダウンリストに [Managed] として表示されます。

新しい AP が PnP で Cisco DNA Center に接続されている場合、その AP のシリアル番号は [Choose Serial Number] ドロップダウンリストに [Unclaimed] として表示されます。

新しい AP のシリアル番号がインベントリに登録されていない場合、そのシリアル番号は [Serial Number] ドロップダウンリストに表示されません。インベントリに登録されていない新しいシリアル番号を追加するには、[Choose Serial Number] ドロップダウンリストでシリアル番号を入力して [+] をクリックします。

(注) Cisco DNA Center で検証チェックが実行され、エラーがある場合は表示されます。続行する前に、これらのエラーを修正する必要があります。

新しい AP をプロビジョニングする前に、次の依存関係を解決する必要があります。

- cisco.com のログイン情報を入力してデバイスの EULA に同意します。
- シスコ ワイヤレス コントローラ ソフトウェア イメージバージョンを更新します。この検証によって AP の更新が中止されることはありません。
- [AP Connected SwitchPort] : この検証メッセージによって AP の更新が中止されることはありません。

**ステップ 7** [Next] をクリックします。

古い AP から新しい AP にコピーされた構成が、[Configuration Copied from Old Access Point to New] 画面に表示されます。

**ステップ 8** [Next] をクリックします。

**ステップ 9** [Submit Access Point Refresh Task] 画面で、[Provision] をクリックして AP 更新タスクを開始します。

**ステップ 10** [Track Replacement Status] 画面で AP 交換ステータスをモニターできます。

- AP 交換ステータスの詳細を確認するには、[View Details] をクリックします。
  - AP の交換に成功した場合、[Replacement Status] ウィンドウの [Replacement Status] に [REPLACED] と表示されます。
  - AP の交換に失敗した場合、[Replacement Status] に [Error] と表示されます。
- 交換エントリを削除するには、[Actions] 列で青色の 3 つのドットをクリックし、[Delete] をクリックします。[Warning] ダイアログボックスで、[Yes] をクリックします。
- プロビジョニングの概要を CSV ファイルにダウンロードしてローカルに保存するには、[Export] をクリックします。
- プロビジョニング ステータス レポートをダウンロードするには、[Download Report] をクリックします。

(注) 新しい AP がインベントリでまだ検出されず、対応する AP 更新エントリが新しいデバイスの接続を待機している場合、または PnP 要求プロセスが進行中の場合は、シスコ ワイヤレス コントローラを再同期する必要があります。

**ステップ 11** [Next] をクリックして、概要画面で詳細を確認します。

**ステップ 12** 交換が正常に完了すると、Cisco DNA アシユアランス で古い AP と新しい AP についての AP 更新イベントが生成されます。

AP 更新イベントは、[AP View 360] ウィンドウの [Event Viewer] で確認できます。

[Network Hierarchy] ウィンドウの対応するフロアマップで、新しい AP が自動的に更新されます。

## ユーザー定義ネットワークの設定ワークフロー

ここでは、Cisco DNA Center でワークフローを使用して Cisco ユーザー定義のネットワークサービスを設定する方法を示します。

### ユーザー定義のネットワークサービスの概要

プリンタ、スピーカー、Apple TV、Google Chromecast、リングドアベル、スマート電球など、ネットワーク上のホームデバイス、コンシューマデバイス、IoT デバイスは、デバイスの検出と使用が簡単になるように、Apple Bonjour などの Simple Service Discovery Protocol (SSDP)、マルチキャスト DNS (mDNS)、ユニバーサルプラグアンドプレイ (UPnP) に依存しています。

Cisco ユーザー定義のネットワークサービスは、寮の部屋、教室、講堂などの共有環境において、クライアントデバイスのセキュアでリモートのオンボーディングを提供します。ユーザー定義のネットワークサービスを使用すると、SSDP (Apple Bonjour など)、mDNS プロトコル (AirPlay、AirPrint、画面ミラーリング、印刷など)、UPnP プロトコルのセキュアな使用が可能になり、共有環境におけるやり取りや共有を登録されたデバイスのみと行えるようになります。

ユーザー定義のネットワークサービスは、次のソリューションを提供します。

- クライアントデバイスの簡単でセキュアなオンボーディング。
- 特定のユーザーに属するクライアントデバイスの自動セグメンテーション。
- 他のユーザーを招待してデバイスを共有する機能。

サポートされる Cisco DNA Center、Cisco Identity Services Engine、Cisco Catalyst 9800 シリーズワイヤレスコントローラのソフトウェアバージョンとアクセスポイントは次のとおりです。

- Cisco DNA Center リリース 1.3.1.2 以降
- Cisco Identity Services Engine リリース 2.7 以降
- Cisco Catalyst 9800 シリーズワイヤレスコントローラ リリース 17.1.x
- Cisco 802.11ac Wave 2 AP :
  - Cisco Aironet 1810 シリーズ OfficeExtend アクセスポイント
  - Cisco Aironet 1810W シリーズ アクセスポイント
  - Cisco Aironet 1815i アクセスポイント
  - Cisco Aironet 1815w アクセスポイント

- Cisco Aironet 1815m アクセスポイント
  - Cisco 1830 Aironet シリーズ アクセスポイント
  - Cisco Aironet 1850 シリーズ アクセスポイント
  - Cisco Aironet 2800 シリーズ アクセスポイント
  - Cisco Aironet 3800 シリーズ アクセスポイント
  - Cisco Aironet 4800 シリーズ アクセスポイント
- 
- Cisco 802.11ac Wave 1 AP
    - Cisco Aironet 1700 シリーズ アクセスポイント
    - Cisco Aironet 2700 シリーズ アクセスポイント
    - Cisco Aironet 3700 シリーズ アクセスポイント

## ユーザー定義のネットワークサービスを設定するための前提条件

Cisco ユーザー定義のネットワークサービスを設定する前に、次の前提条件を満たしている必要があります。

- AP が シスコ ワイヤレス コントローラ に参加していることを確認します。
- 検出されたデバイスが [Inventory] ウィンドウに一覧表示されるように、[Discovery] 機能を使用してネットワーク内の シスコ ワイヤレス コントローラ と AP を検出します。
- AAA サーバー クライアント エンドポイントを Cisco Identity Services Engine にマッピングします。
- 認証トークンを Cisco DNA Center に追加します。
- 非ファブリック エンタープライズ SSID またはゲストワイヤレス SSID を任意のセキュリティで作成し、ネットワークプロファイルにマッピングします。
- SSID をプロビジョニングします。

## ユーザー定義のネットワークサービスの設定

この手順では、Cisco ユーザー定義のネットワークサービスを [Workflows] > [Configure Cisco User Defined Network] ウィンドウから設定する方法を示します。Cisco ユーザー定義のネットワークサービスは、このほかに [Provision] > [Services] > [Cisco User Defined Network] ウィンドウからも設定できます。

- 
- ステップ 1 Cisco DNA Center GUI で [Menu] アイコン (☰) をクリックして選択します [Workflows] > [Configure Cisco User Defined Network] の順に選択します。

**ステップ 2** [Let's Do It] をクリックします。

[Let's start with configuring the Service] 画面が表示されます。Cisco DNA Center を Cisco DNA Center Cloud に接続するために、Cisco DNA Center Cloud ポータルを使用して認証トークンを生成する必要があります。

**ステップ 3** [Configure Cloud Service] をクリックします。

Cisco DNA Center Cloud アプリケーションが新しいタブで開きます。

**ステップ 4** cisco.com アカウントの ID とパスワードを使用して Cisco DNA Center Cloud にログインします。

- 左側のメニューで [Authentication Token] タブをクリックします。  
[Authentication Token] ウィンドウが表示されます。
- [Authentication Token] ウィンドウで、[Generate New Token] をクリックします。  
認証トークンが生成されます。
- [Copy Token] をクリックして、認証トークンをコピーします。

**ステップ 5** Cisco DNA Center の [Let's start with configuring the Service] 画面に戻ります。

**ステップ 6** [Next] をクリックして、コピーした認証トークンを検証します。

**ステップ 7** Cisco DNA Center Cloud で生成してコピーした認証トークンを [Authentication Token] テキストボックスに貼り付け、[Connect] をクリックします。

トークンの検証に成功すると、「Connection validated, click Next to proceed」というメッセージが表示されます。

トークンの検証に失敗した場合は、[Retry] をクリックし、認証トークンを再度入力して [Connect] をクリックします。

**ステップ 8** [Next] をクリックして、Cisco ユーザー定義のネットワークサービスを有効にするサイトを選択します。

- [Select Sites] ドロップダウンリストからサイトを選択します。
- [Disable User Defined Network Service] チェックボックスをオンにすると、ワークフローが有効になっているすべてのサイトで無効になります。

**ステップ 9** [Next] をクリックして、選択したサイトの SSID を選択します。

前の手順で選択したすべてのサイトについて、プロビジョニングされている非ファブリック SSID が表示されます。

- [SSID(s)] ドロップダウンリストから、ユーザー定義のネットワークサービスを有効にする SSID を選択します。
- 選択した SSID のユニキャストトラフィックを制限するには、[Unicast Traffic Containment] をオンにします。
- ユニキャストトラフィックの封じ込めを特定のサイトに適用するには、[Apply Individually] をクリックします。

- ユニキャストトラフィックの封じ込めをすべてのサイトに適用するには、[Apply to all] をクリックします。

**ステップ 10** [Next] をクリックします。

**ステップ 11** Cisco ユーザー定義のネットワークサービスをネットワークですぐにプロビジョニングするか、後でプロビジョニングするようにスケジュールするかを選択します。

- ネットワークでのサービスのプロビジョニングをすぐに行う場合は、[Now] オプションボタンをクリックし、[Next] をクリックします。
- ネットワークでのサービスのプロビジョニングを後で行う場合は、[Later] オプションボタンをクリックして日付と時刻を定義し、[Next] をクリックします。

[Configuration Summary] 画面が表示されます。

**ステップ 12** 次の詳細を確認し、変更が必要な場合は該当するセクションで [Edit] をクリックします。

- 認証トークン
- 選択したサイトと SSID
- スケジュールリング

**ステップ 13** [構成] をクリックします。

次の画面では、完了した順に各ステップの横にチェックマークが表示されます。

**ステップ 14** [View Provisioning Status] をクリックします。

---

## スイッチでのアプリケーションホスティングの有効化

次の手順は、ThousandEyes Enterprise Agent、iPerf などの Docker アプリケーションを特定のサイトの選択したスイッチで有効にするために役立ちます。

### 始める前に

- 前提条件を満たします。詳細については、「[アプリケーションホスティングの前提条件](#)」を参照してください。
- アプリケーションを Cisco DNA Center に追加します。詳細については、「[アプリケーションの追加](#)」を参照してください。
- アプリケーションをホストするためのスイッチの準備状況を確認します。詳細については、「[アプリケーションをホストするデバイスの準備状況の表示](#)」を参照してください。



- ステップ 1** Cisco DNA Center GUI で [Menu] アイコン (☰) をクリックして選択します[Provision] > [Services App] > [Hosting for Switches] の順に選択します。アプリケーションを選択し、画面下部の [Install] をクリックします。
- ステップ 2** [Workflows] > [Enable Apps on Switches] > [Let's Do it] の順に選択してワークフローを起動することもできます。  
ワークフローが起動されます。
- (注) ページの上部にある青色の進捗状況バーにカーソルを合わせると、そこに一覧表示される前の手順に戻ることができます。
- ステップ 3** [Select Site] ウィンドウで、アプリケーションを有効にするビルディングに移動します。
- ステップ 4** [Next] をクリックします。
- ステップ 5** [Select App] ウィンドウでアプリケーションを選択します。
- ステップ 6** [Next] をクリックします。
- (注) [+ New App] リンクにアクセスして、Cisco DNA Center に存在しないアプリケーションを追加できます。
- ステップ 7** [Select Switches] ウィンドウで、アプリケーションを有効にするデバイスを選択します。
- (注) [Select Switches] ダイアログボックスで指定したテンプレートに詳細を入力することにより、デバイスを一括でインポートまたはエクスポートできます。
- ステップ 8** [Next] をクリックします。
- ステップ 9** [Configuration App] ウィンドウで、以降の設定を実行します。
- **App Networking**
    - [Device Network] : [Select Network] ドロップダウンリストをクリックして、アプリケーションを設定する VLAN を選択します。
    - [App IP address] : [Address Type] ドロップダウンリストから、[Static] または [Dynamic] を選択します。[Static] を選択した場合は、サムネイルアイコンをクリックして、アプリケーションの [IP Address]、[Gateway]、[Prefix/Mask]、および [DNS] を入力します。
  - [Resource Allocation] : [Allocate resources as asked by the app] または [Allocate all resources available on a device] チェックボックスをオンにします。
  - [Custom Settings] : シスコ パッケージアプリケーションにのみ適用されます。アプリケーションによって指定された属性の設定の詳細を入力します。
  - [App Data] : アプリケーション固有のファイルを参照してアップロードします。必要なアプリケーション固有のファイルを特定するには、関連するアプリケーションのドキュメントを参照してください。
  - [Docker Runtime Options] : アプリケーションに必要な Docker ランタイムオプションを入力します。
- ステップ 10** [Summary] ページで、選択したスイッチにアプリケーションをインストールする前に詳細を確認します。

- ステップ 11** [Next] をクリックします。
- [Provisioning Task] ウィンドウに、スイッチでのアプリケーションの展開を追跡するタスク名が表示されます。
- ステップ 12** 自動生成されたタスク名を確認し、[Provision] をクリックします。
- ステップ 13** [Track Provisioning Status] ウィンドウで展開の進捗状況を追跡できます。
- ステップ 14** [View Details] をクリックして、個々のデバイスのプロビジョニングステータスと障害を確認します。
- ステップ 15** [Next] をクリックします。
- アプリケーションが正常に有効化されました。
- タスクの結果の概要と成功/失敗の回数が表示されます。
- ステップ 16** [Manage App] をクリックします。ここで、アプリケーションのライフサイクル動作を管理して、N 日目のタスクを実行することができます。

---

## IoT サービスの有効化ワークフロー

ここでは、Cisco DNA Center のワークフローを使用して、Cisco Catalyst 9100 シリーズ アクセスポイントで Bluetooth、Zigbee、ESL などの IoT テクノロジーを有効にする方法について説明します。

## Cisco Catalyst 9100 シリーズ アクセスポイントでの IoT サービスの有効化

この手順では、選択した Catalyst 9100 シリーズ アクセスポイントで、Bluetooth、Zigbee、ESL などの IoT テクノロジーを有効にすることができます。

- 
- ステップ 1** Cisco DNA Center GUI で [Menu] アイコン (☰) をクリックして選択します[Workflows]。
- 使用可能なワークフローのライブラリが表示されます。これらのワークフローを使用することで、特定のタスクを手順に従って実行できます。
- ステップ 2** [Enable IOT Services] をクリックします。
- ステップ 3** [Let's Do It] をクリックして、インストールワークフローを開始します。
- ステップ 4** [Select Site] ウィンドウで、IoT サービスを有効にするフロアまで移動します。
- ステップ 5** [Next] をクリックします。
- ステップ 6** [Select the Application] ウィンドウで、ネットワークで IoT を有効にするための SES-imagotag ESL Connector アプリケーションを選択し、[Next] をクリックします。
- (注) Cisco DNA Center に存在しないアプリケーションを追加するには、「[アプリケーションの追加](#)」を参照してください。

[Select Access Points] ウィンドウには、特定のフロアで使用可能なすべての AP が表示されます。

**ステップ 7** [Select Access Points] ウィンドウで、IoT コネクタアプリケーションをインストールするデバイスの [Device Name] の横にあるチェックボックスをオンにします。

**ステップ 8** [Next] をクリックします。

**ステップ 9** [Summary] ウィンドウで、選択した AP にアプリケーションをインストールする前に詳細を確認し、[Next] をクリックします。

[Provisioning Task] ウィンドウが表示され、AP への任意のアプリケーションの展開を追跡するために作成されたタスク名が表示されます。

**ステップ 10** 自動生成されたタスク名を確認し、[Provision] をクリックします。

**ステップ 11** [Track Provisioning Status] ウィンドウで展開の進捗状況を追跡できます。

**ステップ 12** [View Details] をクリックして、プロビジョニングステータスを確認します。

**ステップ 13** [Next] をクリックします。

タスク完了 [Done! Task Completed] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 14** [Manage IoT Application] をクリックして、Day-N タスクを実行します。

---

## IoT アプリケーションの管理

この手順では、IoT アプリケーションを管理する方法を示します。

### 始める前に

Cisco Catalyst 9000 シリーズ アクセス ポイントで IoT サービスを有効にしておく必要があります。

---

**ステップ 1** IoT サービスを有効にした後、[Done! Task Completed] ウィンドウで [Manage IoT Application] をクリックします。

**ステップ 2** [Hostname] の横にあるチェックボックスをオンにして、次のタスクを実行します。

- アプリケーションを起動するには、[Actions] ドロップダウンリストから [Start App] を選択します。
- アプリケーションを停止するには、[Actions] ドロップダウンリストから [Stop App] を選択します。
- アプリケーション設定を編集するには、[Actions] ドロップダウンリストから [Edit App Config] を選択します。
- アプリケーションをアップグレードするには、[Actions] ドロップダウンリストから [Upgrade App] を選択します。
- 選択した AP からアプリケーションをアンインストールするには、[Actions] ドロップダウンリストから [Uninstall App] を選択します。

ステップ3 AP名をクリックすると、次の詳細が表示されます。

- [AP Name]
- AP Status
- IP アドレス
- 状態

ステップ4 [Tech Support logs] をクリックして、アプリケーションホスティングログを収集します。

---

## Cisco DNA Center からの AP 設定について

[Configure Access Points] ワークフローを使用すると、Cisco DNA Center で AP レベルと無線レベルのパラメータを設定および展開できます。

次の AP レベルパラメータを設定できます。

- AP の位置
- AP 管理ステータス
- AP モード
- AP LED ステータス
- AP フェールオーバー優先度
- ハイアベイラビリティ

次の無線レベルパラメータを設定できます。

- 無線管理ステータス
- 無線出力の設定
- 無線チャンネルの設定

## AP ワークフローの設定

この手順では、Cisco DNA Center で AP および無線パラメータを設定する方法を示します。

始める前に

AP がサイトに割り当てられていることを確認します。

---

ステップ1 Cisco DNA Center GUI で [Menu] アイコン (☰) をクリックして選択します[Workflows] > [Configure Access Points] の順に選択します。

- ステップ 2** [Let's Do it] をクリックします。  
今後この画面をスキップするには、[Don't show this to me again] チェックボックスをオンにします。  
[Get Started] 画面が表示されます。
- ステップ 3** [Task Name] フィールドにワークフローの一意の名前を入力し、[Next] をクリックします。
- ステップ 4** [Select Site from the hierarchy] 画面で、AP 関連の設定を適用するサイトに移動します。  
右側のペインに、選択したフロア、およびそのフロアで使用可能な AP の数が表示されます。
- ステップ 5** [Next] をクリックします。  
[Select Access Points] 画面に、選択したサイトで使用可能なすべての AP が一覧表示されます。
- ステップ 6** [Select Access Points] 画面で、AP のチェックボックスをオンにして、AP 名を一括編集します。
- ステップ 7** [Next] をクリックします。
- ステップ 8** [Modify AP Name] 画面には、前の画面で選択した AP のリストが表示されます。  
この画面では、AP の新しい名前を入力できます。
- ステップ 9** [Next] をクリックします。
- ステップ 10** [Configure AP Parameters] 画面で、次の AP パラメータを設定できます。
- [Location] チェックボックスをオンにし、ロケーションの詳細を入力します。
  - [Admin Status] チェックボックスをオンにして、[Disable] ボタンをクリックして管理ステータスを無効にします。
  - [AP LED Status] チェックボックスをオンにし、[Disable] ボタンをクリックして AP LED ステータスを無効にします。
  - [AP Mode] チェックボックスをオンにし、[Select AP Mode] ドロップダウンリストから [AP Mode] を選択します。[Local/Flex] または [Monitor] モードを選択できます。
  - [AP Failover Priority] チェックボックスをオンにし、[AP Failover Priority] ドロップダウンリストから優先順位を選択して、AP のフェールオーバー優先順位を設定します。次のオプションを使用できます。
    - [Low] : アクセスポイントに優先度レベル 1 を割り当てます。これは最も低い優先度レベルです。これはデフォルト値です。
    - [Medium] : アクセスポイントに優先度レベル 2 を割り当てます。
    - [High] : アクセスポイントに優先度レベル 3 を割り当てます。
    - [Critical] : アクセスポイントに優先度レベル 4 を割り当てます。これは最も高い優先度レベルです。
  - [Controller Configuration] チェックボックスをオンにして、アクセスポイントのプライマリ、セカンダリ、およびターシャリコントローラの名前と IP アドレスを設定します。
- ステップ 11** [Configure 802.11 a/n/ac/ax Parameters] 画面で、次の 802.11 a/n/ac/ax パラメータを設定します。

- [Admin Status] チェックボックスをオンにして、[Disable] ボタンをクリックして管理ステータスを無効にします。
- [Power Assignment] チェックボックスをオンにして、[Custom] ボタンをクリックして [Select Custom Power] ドロップダウンリストからカスタム電力を選択します。
- [Channel Assignment] チェックボックスをオンにして、[Custom] ボタンをクリックして [Select Custom Channel] ドロップダウンリストからカスタムチャンネル番号を選択します。
- [Channel Width] チェックボックスをオンにして、[Select Channel Width] ドロップダウンリストからいずれかのチャンネル帯域幅オプションを選択します。
  - 20 MHz
  - 40 MHz
  - 80 MHz
  - 160 MHz
- [Antenna Name] チェックボックスをオンにして、[Select Antenna Name] ドロップダウンリストからアンテナ名を選択します。
- アンテナ名として [Other] を選択した場合は、[Antenna Gain(in dBi) (for Antenna-Other)] フィールドにアンテナゲイン値を入力します。外部アンテナの性能を指定する数値を入力し、特定の空間領域に無線エネルギーを向けたり、収束させたりします。高ゲインアンテナの放射パターンは、特定の方向により収束したものになります。アンテナゲイン値は 0 ~ 40 です。
- [Azimuth] チェックボックスをオンにして、方位角方向の値を度数で入力します。方位角は、x 軸に対して測定されたアンテナの角度です。方位角の範囲は 0 ~ 360 です。
- [Elevation] チェックボックスをオンにして、仰角方向の値を度数で入力します。仰角方向の範囲は 0 ~ 90 です。
- [Next] をクリックします。

**ステップ 12** [Configure 802.11 b/g/n Parameters] 画面で、次の 802.11 b/g/n パラメータを設定します。

- [Admin Status] チェックボックスをオンにして、[Disable] ボタンをクリックして管理ステータスを無効にします。
- [Power Assignment] チェックボックスをオンにして、[Custom] ボタンをクリックして [Select Custom Power] ドロップダウンリストからカスタム電力を選択します。
- [Channel Assignment] チェックボックスをオンにして、[Custom] ボタンをクリックして [Select Custom Channel] ドロップダウンリストからカスタムチャンネル番号を選択します。
- [Antenna Name] チェックボックスをオンにして、[Select Antenna Name] ドロップダウンリストからアンテナ名を選択します。
- アンテナ名として [Other] を選択した場合は、[Antenna Gain(in dBi) (for Antenna-Other)] フィールドにアンテナゲイン値を入力します。外部アンテナの性能を指定する数値を入力し、特定の空間領域に

無線エネルギーを向けたり、収束させたりします。高ゲインアンテナの放射パターンは、特定の方向により収束したものになります。アンテナゲイン値は 0 - 40 です。

- [Azimuth] チェックボックスをオンにして、方位角方向の値を度数で入力します。方位角は、x 軸に対して測定されたアンテナの角度です。方位角の範囲は 0 - 360 です。
- [Elevation] チェックボックスをオンにして、仰角方向の値を度数で入力します。仰角方向の範囲は 0 - 90 です。

**ステップ 13** [Next] をクリックして、概要画面で詳細を確認します。[Summary] 画面で、次の AP 設定の詳細を確認し、該当するセクションで [Edit] をクリックして、変更を加えます。

- [Select Site from the hierarchy]
- [Select Access Points]
- [Modify AP Name]
- [Select AP Parameters]
- [Select 802.11 a/n/ac/ax Parameters]
- [Select 802.11 b/g/n/ax Parameters]

**ステップ 14** [Next] をクリックします。

**ステップ 15** すぐにプロビジョニングするか、後でプロビジョニングするようにスケジュールするかを選択します。

**ステップ 16** すぐにプロビジョニングする場合は、[Now] オプションボタンをクリックして、[Next] をクリックします。後でプロビジョニングする場合は、[Later] オプションボタンをクリックして日付と時刻を定義し、[Next] をクリックします。

**ステップ 17** [Track Provision Status] 画面で、[AP Configuration Provision] ステータスを確認できます。

---





## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。